

平成24年度沖縄群島病害虫発生予報第4号(7月予報)

I 7月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	30	40
平 年 並	40	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成24年6月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	28.9	31.8	26.8	141.1	238.8

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 7月の発生予報および防除上の注意事項

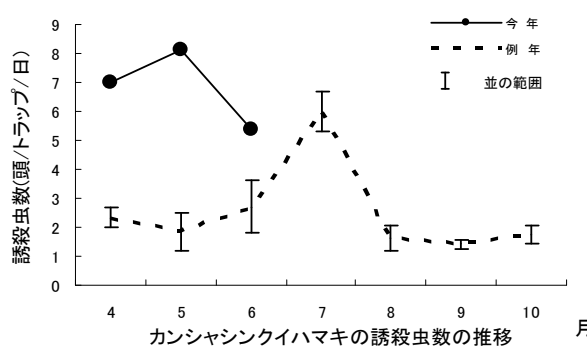
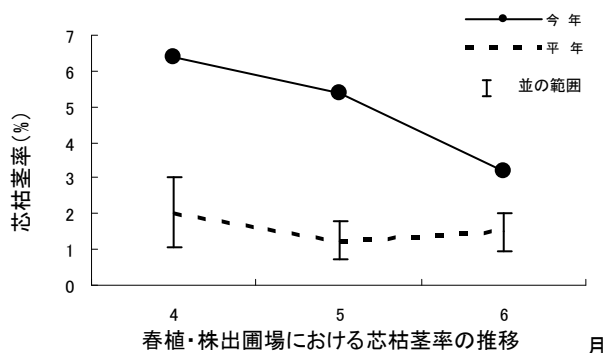
1 さとうきび

(1) カンシャシクイハマキ

発生程度 : 多

予報の根拠

- a 6月下旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は3.2%(前年4.2%、平年1.5%)と平年より高かった。
- b 6月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は5.4頭(前年0.8頭、平年2.7頭)と例年より多かった。

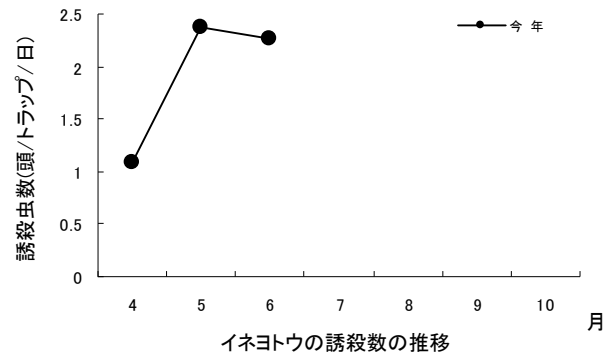
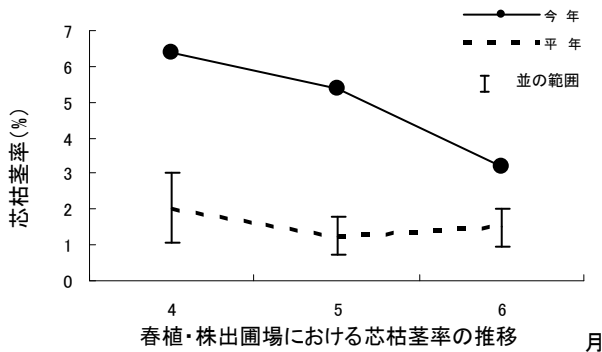


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 6月下旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は3.2%(前年4.2%、平年1.5%)と平年より高かった。
- b 6月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.3頭であった。
- c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。

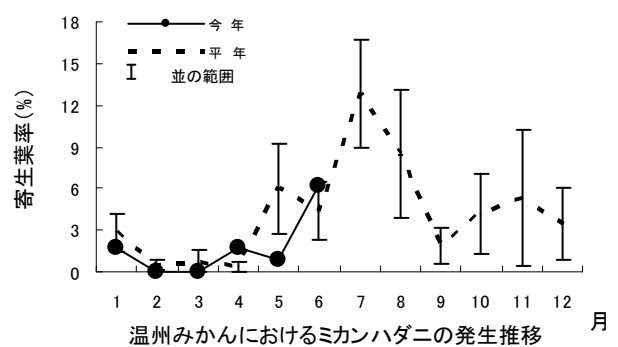
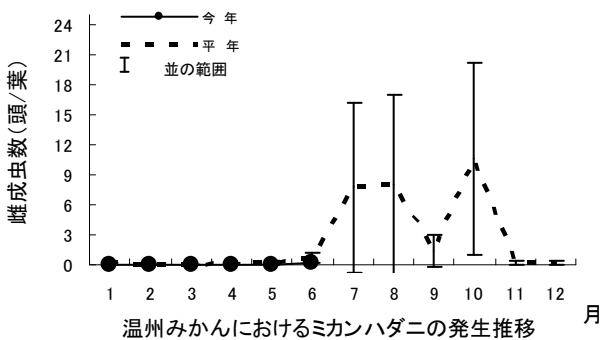
2 温州みかん

○ そうか病の防除対策

- a 6月下旬の調査の結果、発病果率は4.4%(前年8.8%、平年6.8%)と平年並であった。また、一部の園地で発生が多くみられた。
- b 病害虫防除員からの報告によると、6月の発生程度は中であつた。
- c 摘果作業時に、発病果の除去に努める。
- d 発生がみられる園地では、薬剤による防除を徹底する。

○ ミカンハダニの防除対策

- a 6月下旬の調査の結果、葉あたり雌成虫数は0.1頭(前年1.5頭、平年0.7頭)と平年よりやや少なく、寄生葉率は6.2%(平年4.4%)であつた。また、一部の園地で発生がみられた。
- b 本種は夏～秋にかけて発生が多くなることから、薬剤による防除を徹底する。



3 マンゴー

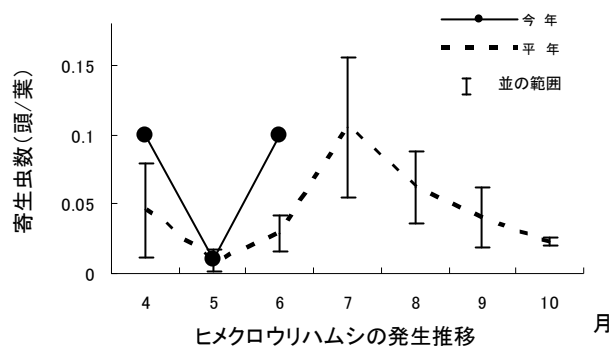
○ チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 6月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.9頭(前年0.4頭、平年3.1頭)で平年並であった。また、一部の園地で発生が多くみられた。
- b 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

4 へちま

- (1) ヒメクロウリハムシ
発生程度 : 多
予報の根拠

6月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.1頭未満、平年0.1頭未満)と平年より多かった。



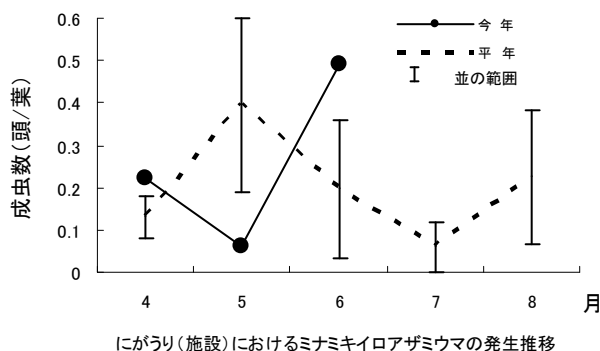
<防除上注意すべき事項>

- シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- 圃場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- 産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。

5 にながうり(施設)

- (1) ミナミキイロアザミウマ
発生程度 : やや多
予報の根拠

6月下旬の調査結果、葉当たり成虫数が0.49頭(平年0.20頭、前年0.11頭)と平年よりやや多かった。



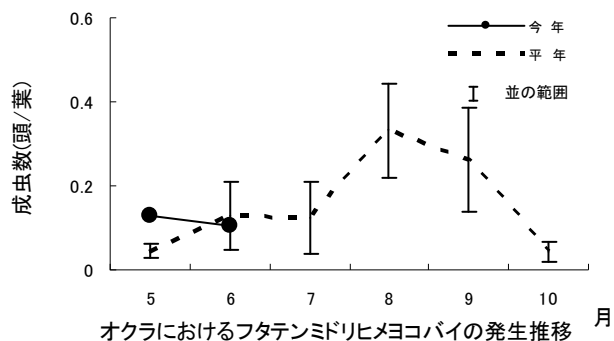
<防除上注意すべき事項>

- 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の飛来侵入を防ぐ。
- 摘心や摘葉後の残渣は、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。

6 オクラ

- (1) フタテンミドリヒメヨコバイ
発生程度 : 並
予報の根拠

6月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.1頭、平年0.1頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 多発すると吸汁加害により葉の萎縮や黄化が進み生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- 発生源となる圃場周辺の雑草を除去する。